

令和5年度 第2回海陽町学校のあり方検討委員会
議事録

日時：令和5年10月31日（火） 18：30～

場所：阿波海南文化村 海南文化館 大会議室

出席者：委員16名中13名出席

事務局：（担当課）海陽町教育委員会 三浦教育長、森崎教育次長、浦川課長補佐
（受託者）リージョナルデザイン株式会社 安孫子、宇田

- ・委員長挨拶
- ・教育長挨拶
- ・委員紹介
- ・事務局紹介

■議題1 学校再編基本計画(計画素案)

（皆津委員長）

議事を進めます。事務局から資料の説明があつてから、委員の皆様の意見を聞きます。議題1の学校再編基本計画の素案について事務局の方から説明をお願いします。

（事務局）

それではお手元の資料について説明させていただきます。学校のあり方検討委員会については、教育委員会より諮問を行い、検討委員会で7回会議を重ね、答申を本年3月に受けています。令和5年度より学校再編の計画策定に向けて、第1回会議を8月31日に、第2回会議を本日開催するものでございます。

資料1の3ページ目をご覧ください。今後、基本計画の方針が定まった時点で、方針に沿って、2海陽町の現状と見通しの統計データは更新します。また、昨年度実施したアンケート調査結果から抜粋して記載を検討します。

9ページ目をご覧ください。適正規模、適正配置を定めるため、学校再編を進める上で4つの視点を基本的な考え方に据えます。

1つ目が教育的視点です。学校の役割は、児童生徒の能力を伸ばしつつ、社会的自立の基礎・資質を養うことを目的としています。そのため、児童生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて思考力や表現力、判断力、問題解決能力などを育み、社会性や規範意識を身に付けさせることが重要と考えます。この点から、【集団による教育の充実】【小中一貫教育の推進】【中学校の部活動】【スクールバス】【教職員の働き方】の5つの項についてまとめます。

2つ目は地域連携の視点です。【地域と学校の交流】【コミュニティ・スクール】【放課後子ども教室】の3つの項についてまとめます。

3つ目はまちづくりの視点です。【安心安全な学校】【地域の未来を担う子どもを育てる学校】の2つの項についてまとめます。

4つ目が学校施設の適正化の視点です。【行財政改革プラン】【廃校後の跡地利用】の2つの項についてまとめます。以上が、昨年度学校のありかた検討委員会で教育委員会へ答申した基本方針となります。

この基本方針をもとに、12ページから15ページまで適正規模・適正配置を図る上での課題を整理しています。まず、12ページの(5)学級数が少ないことによる学校運営上の課題について、①から⑨を挙げています。これは、文部科学省の学校再編の手引きに記載されているものです。その下の複式学級については、海部小が複式学級となっており、運営上の課題を整理しました。

13ページをご覧ください。学校運営上の課題が児童生徒に与える影響について、①から⑦を挙げています。4ページの教育的視点で、児童生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて思考力や表現力、判断力、問題解決能力などを育む環境をつくっていく事を目指しますので、この①から⑦の課題解決を図ることになります。

14ページの小・中学校の適正な規模は、ページ下の表の通りになります。国の法律で定められています。1学級の規模は、クラス替えができなくても20名程度が望ましいとされています。

15ページの小・中学校の適正な配置は、通学距離が「小学校ではおおむね4km以内、中学校でおおむね6km以内」とされており、通学時間については「おおむね1時間以内」を目安としています。

16ページをご覧ください。学校再編の方針は、昨年度の学校のありかた検討委員会の答申のとおり、学校規模の維持を図りながら教育の充実を図っていくため、宍喰と海南海部で小学校2校中学校2校の体制へ移行し、続いて1校1校体制へ移行する方針です。

18から19ページをご覧ください。1校1校体制へ学校再編が決まるまで、あるいは、1校1校体制移行も想定して、小規模校の教育の充実化の方針を記載しています。

19ページの再編統合の進め方は、地域に学校再編の組織を設置し、地域の参加を得て学校再編を進めていく方針について記載しています。

20ページをご覧ください。学校再編の組織を設置し、地域ぐるみで、学校再編の課題を設定し、対応方針を10項目定めています。今後この検討委員会のご意見、阿南市など周辺自治体の学校再編の動向に注視し、内容を更新していきます。基本計画の全般にわたり、記載項目の追加等含めご意見をお願いします。

以上で、説明を終わります。

(皆津委員長)

質問等がありますか。

無いようでしたら私から、18ページの教育課程特例校制度について具体的にお願いします。

(事務局)

必要に応じて活用するものとなっており、状況に応じて判断をします。

(三浦教育長)

海陽町ではグローバル教育を推進しており、中学校の英語の時間が4時間だとして、それを特例校にして英語の時間を増やすことや、どこかの時間を削って英語の時間を増やすなどの検討をしています。まだ方向性は決まっていません。

(皆津委員長)

地域住民への説明会の段取りはどうなっていますか。

(事務局)

学校活性化協議会を母体にしながら行っている地域もあるということで、地域参加型で学校再編のご意見を聞いていくことを考えています。

(皆津委員長)

学校だけの問題ではなく、地域としても活性化に関わる部分でもあるので、子どもたちだけでなく地域住民の意見も取り入れられた今後のあり方を大事にしていきたいと個人的に思っています。

(三浦教育長)

基本計画の素案が完成してパブリックコメントを行った後、保護者や住民への説明会を計画しています。今年度の予定としては2月中旬から実施できればと考えているが、実施方法については検討が必要です。

(皆津委員長)

住民の参加が少なくても、しないといけないと思います。

(事務局)

今回が初めて参加される方もいるということで、計画策定のスケジュールとしては、8月に第1回、第2回が今回、そして1月に第3回を予定しています。計画素案の策定から始め、適正規模・適正配置の検討、教育のあり方を検討するのが第3回までとなっています。3回目を終えた後にパブリックコメントを実施し、3月の第4回で計画の原案をお示しする形になります。

(皆津委員長)

皆さんのご意見を聞きたいと思うが、いかがでしょうか。

(元木委員)

1つ質問として、7ページの施設の経過年数について、2020年が基準になっているが2023年に合わせてプラス3年しなくてもいいのでしょうか。

(事務局)

これは施設の長寿命化計画の方から反映させたことによるものです。2023年に合わせるようにします。また、誤字脱字や文字の位置のずれについても、資料では修正できていないが直すように進めていきます。

(平岡委員)

2ページの下に本計画は10年計画とするとあるが、10年後に1校1校体制を目指すということでしょうか。

(事務局)

10年後に1校1校体制になるというのではなく、全体の中の計画を10年として作っています。その中で児童生徒の減少の状況や複式の解消ができないなど要因がある中で、海南小と海部小の統合は令和9年が目標になっています。その後、学校再編の1校1校体制になるまでの流れは、次の10年で状況を見据えた上で、新たな協議がなされていくと思います。

(皆津委員長)

10年後に1校1校体制になるのではなく、状況を見ながらということですね。

(事務局)

その間に2校2校体制から1校1校体制になる場合もあれば、中学校だけが先に1校になるといった2校1校体制になることもあります。ただ、中学校が統合されると、早期に1校1校体制に繋がる可能性が高いと思われます。

(三浦教育長)

最終的に適正規模・適正配置でみれば1校1校体制になるという状況です。ここに書いてあるように中学校の複式学級は避けたいです。ただ栄養は少ないため、小学校2校、中学校1校から最終的に1校1校体制になるということは考えられます。

(皆津委員長)

部活動については、少人数のため単独で試合に出れない学校もあります。どんな活動の仕方がありますか。

(事務局)

部活動の地域移行については、学校と社会体育の部分と話を進めている。県の方も運動部だけでなく、文化部でも同じ状況ということで、それも合わせて話を進めているところです。龍田委員にはこのあたりの取りまとめをしていただいております。部活動については拠点移行の方式を含めて現在協議している状況です。

(三浦教育長)

海陽町の中学校の部活は海陽中と穴喰中で同じものを選択できるようにしています。単独では厳しいので、海陽中と穴喰中が合同チームという形で大会に出場していて、お互いの学校にバスを配置して行き来もできるようにしています。野球は今年から拠点移行方式をとって、郡内5校の中学校でチームを組んでいます。合同チームは人数が足りない学校で組むが、拠点移行方式は大きく捉えて人数が足りていても足りなくても組めるようになっており、中体連でも拠点移行方式による大会出場を認めています。これから他の部活動にも広まっていくと思われます。地域移行については、その辺を含めながらになるが、現在は合同と拠点移行方式で運営しています。

(事務局)

9ページの適正規模・適正配置に関する基本的な考え方(1)4つの視点の1番下にある【中学校の部活動】にも明記されていますので、ご覧ください。

(皆津委員長)

地域移行の見通しについてはどうでしょうか。

(事務局)

県としても進みが難しいというところで、モデル校みたいなものを作って進めているが、教える方とかベースの部分を準備しているところです。今年度、県では部活動の地域移行の会議をオンラインで2回実施している状況です。

(吉成委員)

地域総合型スポーツクラブとの連携とあるが、近くで地域総合型スポーツクラブといえば愛あいクラブだけだと思うが、他に中学校の部活動関係でそういう組織が立ち上がったりする予定はないのでしょうか。

(三浦教育長)

現在協議会を立ち上げて、1番の問題になってくる指導者の問題と受け入れ団体の問題に対し、関係者から情報集めをしているところです。ただなかなかありません。受け入れ団体がない場合は町教委が受け入れ団体となって、そこからどこかにお願いする形になり、見通しは立っていません。

(辻委員)

私も愛あいクラブに入っているが指導者は少ないし、地域総合型スポーツクラブが部活動を受け持っても進むような傾向が今のところありません。また、スポーツクラブの中でもこれについての話し合いは行われていないので、方向性ははっきりと決まれば、協議会とスポーツクラブ等が集まって協議できるようになればいいと思います。

(皆津委員長)

その会議には教育委員会も入っていただいて、より子どものために考えていただければと思います。

(吉成委員)

今回が今年初めての参加で、第1回の時に話し合われたのかもしれませんが、2ページにアンケートを実施したと書いてあってこれはどういった結果だったのでしょうか。

(事務局)

アンケート結果は、今回初めて参加されている方もいらっしゃるということで、資料をまとめてお渡しするようにいたします。

(三浦教育長)

計画の中にもアンケート結果を記載する予定です。

(皆津委員長)

アンケート結果は大事なもので、今回初めて参加される方はまだ持っていないと思うので、前回配ったものをお渡しするようにお願いします。

(吉成委員)

アンケート対象者が教職員と保護者になっているが、子どもらには行っていないのですか。

(事務局)

15歳から任意的抽出を行ったため、中学3年生や高校生といった10代も対象となっています。

(谷口委員)

前年度から参加している中で、アンケート結果で保護者からの回答が少ないという意見があったと思うが、また実施する予定はありますか。

(事務局)

今後はパブリックコメントや、4回目の会の後に各地域に行って説明を行う中で民意を反映することになります。

(谷本委員)

私も前年度から参加する中で、教育的視点や財政的な面から統合することは仕方ないと思います。ただ、地域の視点から言うと海部地区から小学校が無くなることは寂しいし、少しでも長く続いてほしいと思っています。今後は地域への周知をしっかりとしてほしいと思っているのと、廃校後の利用や統合後の通学時間がどれくらいになるのか、遠くから通う子のバスの乗り場をどうするのが気になっています。

(小山委員)

地域の視点から言うと、栄養保育所としては栄養に小学校や中学校があつたらいいと思います。現在、クラブ活動で子どもたちはすでに交流しているということで、計画では2校制から1校制に順を追っていくと思うが、中学生など子どもたちの中には早く合併することに賛成する意見がもしかしたら多いかもしれません。また、保育所のことを考えると、クラスに10何人いるけど女の子が3人しかいなかったり、男の子が2人しかいないような場合もあり、人数だけで判断するのは子どもたちにとつたら問題が出てくるのかなと思います。

(皆津委員長)

年度によって偏りがあるということですか。

(小山委員)

偏っていてバランスのいい学年がありません。その辺で小学校や中学校になると友達関係が難しくなってくるのかなと思います。

(元木委員)

前年度から参加している中で、栄養小学校と栄養中学校がやっているチェーンスクールのような形が今後1校2校や1校1校になったところでできていくようになると思います。また、就学前から含めて小学校、中学校と育ちの発達の連続性を踏まえて、ここでの学びが深まっていくような教育内容を盛り込んだあり方になればいいと思います。計画は教育課程のことまで書いてあって、地

域の住民の方に説明することは難しいと思うが、それに集まったことによって子どもたちの学びが深まるというようなところを伝えていただけたらと願います。

(龍田委員)

今回が初めての参加ということで、3つの視点でお話があります。

1点目として、部活動のことについて世間で今言われている地域クラブ活動と学校の部活動は元が違うものなので同じ土俵で議論することは難しいといつも考えています。地域クラブ活動は学校から部活動を離していくという思考で始まったものですが、中四国で見ると地域クラブ活動として活動しているものは少ないです。海部郡では先程も話が合ったように合同チームから拠点移行方式にして、分母、学校を拡げて生徒をたくさん募って活性化を目指すということで野球部からスタートしました。現在は5校で22名だが、来年度には10名台になります。その点、なかなか活性化には繋がっていません。拠点移行方式はメリットとして学校の部活動なので保護者の経費負担が少ないことや指導者が最低1人は確保できることがあります。これをゆくゆくは地域クラブ活動にするには、指導者は地域の方になることや運営母体も変わるということになると思うが、行先はまだ見えていません。とりあえず行けるところまで拠点移行方式で行く方向で海部郡の中体連は進めています。単独校もいくつかあるが2年後、3年後は単独でいける保証はないため、学校の部活動を継続させることが難しいと思っています。

2点目として、教育的視点でいえば海陽中学校は今年の101名から来年は90名になる可能性があります。ところが特別支援の生徒さんの割合は変わっていません。特に1対1の対応を必要とする生徒さんが多く、統合して1校になると2校で特別支援の生徒さんにあたるのでは、どちらが教育的な効果があるのかという風に考えています。また生徒指導的な問題で、同じクラスにいたらうまくいかないためクラス替えをしたい場合に、海陽中では来年度から単学級のためできないという状況があります。そこで町内に近くに2校があると、穴喰中学校から海陽中学校に転校してきた事例もあるように、臨機応変に学校の特性に応じて移動することもありだと思いますし、1つの大きな学校、クラスのような感じで捉えることもできます。このように2校あれば、生徒指導の問題でも特別支援の問題でも色々な解決手段が生まれてくるような感じがしています。行けるところまで2校であれば教育効果は高いと現場で感じています。

3点目として、那賀町出身ですが生まれは木沢村で小学校・中学校は廃校しています。今住んでいる場所の近くも小学校が廃校となったことで活気がなくなることを身に染みて感じているので、できる限り、小さくても学校があることで地域が盛り上がるという感想を持っています。

(原委員)

文章を見ている中で、地域の方に基本計画を読んでもらう上で分からない言葉が出てくるので、語句の注釈をつけた方がいいと思います。また、語句の統一であるとか同じ意味でも違うところでは表現が変わっていると誤解を招くところがあるので、手間はかかると思うが語句の統一をして誤解を招かない、伝わりやすく分かりやすい基本計画にしてもらえたらと思います。

(事務局)

見やすいもの、分かりやすいものにするために、できるだけそのように対応します。

(長尾委員)

3ページの方の人口推計を見たらすごく減っていて、特に中学生までの数は2045年には195名

になるということで、1校1校体制は人数で見た時にどうなるのか、20年後こういう数字になった時には1校1校体制になるとかそういうイメージはあるのでしょうか。

(事務局)

人口統計の数字は人口問題研究所の推計ということで、これはコーホートという計算方式で行っており、比較的近い数字だと考えています。1校1校体制になるのがどれくらいかということは議論が必要だと考えています。

(皆津委員長)

人数だけでなく、色々な状況を考えながら決めていくことが大事だと思います。

(三浦教育長)

教員確保の観点から言えば、複式学級になると各教科の教員の確保ができなくなり、その教科の免許がない教員が指導するような形になります。そのような状況になると厳しいと思うし、その辺がポイントになってきます。

(長尾委員)

人口が減っていくのは田舎ではどこでも一緒だと思います。コロナでオンラインが普及したように新しい技術やものにアンテナを張って対応して、地域にとっても子どもたちにとってもいいような形があれば採用して他のモデル校になったら面白いと思います。

(事務局)

海陽町ではICT教育を県下でも1番くらいのつもりで進めています。タブレットは令和2年に生徒に1人1台の配布を県下で1番最初に行いました。令和3年にはApple Pencilの全校生徒への配布も行いました。

タブレット問題は新聞で連日取り上げられているが、当初国の予算では4万5000円のタブレットという話ではあったものの、海陽町では、4万5000円を超えた部分を子どもさんのための基金やコロナの交付金を一部使って、10万円以上するiPad AirとApple Pencilを配布することとしました。また、学校の視聴覚の先生を中心としてICTの教育部会を設置し、先生に向けてタブレットの使い方に関するマニュアル作成や研修を行っています。

海陽町では次の手として、令和5年度には各学校のWi-Fiのアクセスポイントの再整備を行い、通信速度を上げて繋がりやすい環境にしているほか、各家庭でWi-Fi環境がない方には、モバイルルーターの貸し出しを行っています。

そのような特色ある教育としてICT教育のほかグローバル教育としてALTなどにも力を入れている効果かわからないが、徳島県が取り組むデュアルスクールの体験者が海部小学校や央喰小学校に来てくれています。そういった間口を広げていくことで数字の推計が少しでも良くなるような特色ある取り組みを進めています。

(長尾委員)

デュアルスクールとか教育の現場以外でも、海陽町では移住者の取り組みを進めており、前に見た時より人口の減少のグラフが緩やかになっている点で移住者へのアピールが効いていると思います。また、タブレット問題についても報道を見ているとiPadを選んでいただいて感謝しています。

(平岡委員)

私の意見として、穴喰小学校は残してほしいという願望があります。夫が穴喰小学校の出身で親と子が共通の校歌を歌えることは素敵だと思うし、歴史もあって潰れてほしくないと思っています。あと、小山委員が言われたように男女比の偏りが見られていて、飛び級のような形でこの学年が嫌だから勉強頑張って3年生から4年生に上がるようなことはできないのでしょうか。同じ性別が少ないと行きづらいというのもよく聞くので、何か対策があればと思います。

(坂本委員)

今回初めて参加させてもらって資料を見ている中で、子どもたちへのアンケートを取ってあげたらいいなと思います。実際に通うのは子どもたちなので、子どもファーストで考えてあげてほしいです。自分の三男のクラスは男子が4人だが、そこまで困っている様子はありませんでした。少人数でも今のところ困っている感じはないので、小学校や中学校は極力残せる形であればいいなと思います。

(丸本委員)

統合ありきの話で進んでいるが、私自身は反対と思っています。学校が無くなるのが嫌という意見がたくさん出ていることや、統合しても人口は減り続けており、じゃあ次は牟岐と統合しても人口は減っていくという形で最終的に統合を繰り返した結果、地域がなくなってしまうのではないかな。何とかして、今あるところを残すことも大切だと考えます。

今は高校生が卒業したら、他所に出て仕事するような状態で、ここに残って家族を作って暮らしていこうという人がほとんどいません。その点で、この場所で話す段階ではないと私自身思っています。町でまとめて人口減少を減らす取り組みを考えていかなければ、統合しただけで話が済むわけではなく、人口が減ってさらに統合が繰り返されると、ここから通うことが無理になって、親も子どもと一緒にいかなければならなくなります。そういうところを考えなければいけないところにきていると私は感じています。

(皆津委員長)

行政も含めてということですよ。

(丸本委員)

そうです。この場で話す場合ではなく、町で集まってどうしていくか考えていかないといけないと思います。そうでなければ、祭りにしても町の行事にしてもできなくなって廃れていくし、我々の子どもたちの世代の記憶からなくなったら、この行事は消滅してしまいます。

(辻委員)

今言われましたけど、町は学校のあり方検討委員会で検討して、それから町に持っていくという考えだと思うので、いきなり町に行くのではなく、まずここで検討して良い案を作って、それを町に出して考えてもらう方がいいと私の意見としては思います。

あと22ページの放課後子ども教室について、再編統合後の小学校における学校敷地内での放課後子ども教室となっているが、統合すると受け入れる人数が多くなると思います。8ページには学校の使用教室数と余り教室数も書いてあるが、こういう教室を使って放課後子ども教室ができる方

向になるのでしょうか。統合すると人数がかなり増えるので、その学校敷地内の教室でできるかどうか疑問であり、心配しています。

(事務局)

放課後子ども教室についてのご質問ということで、直近でいえば、海部小学校と海南小学校の統合という話になると思います。実際のところ海部小学校から海南小学校へスクールバスでの移動も考えているので、イメージ的にはどちらかといえば統合されたところでの放課後子ども教室ではなくて、海部で今やっているところの場所へバスで送るとかそういう形を考えています。それにより、親御さんが迎えに来ていただくことも今と変わらずに行えることや、近くの生徒さんは歩いて帰ることができることから、そういった形になるのかなと推測されます。ただ、もう少し議論が必要になると思います。どちらかという、統合したところの空き教室を使って両方の生徒さんをいっぺんに見るとなってくると、終わるタイミングとかスクールバスのタイミングとかを考えなくてはなりません。そういう意味でも、このやり方の方がいいのかなと思います。

(三浦教育長)

基本方針案ということでそういうあたりご意見をいただきながら、色々な角度から検討をしないといけないと思いました。ご意見ありがとうございました。

(吉成委員)

海陽町はICT教育に熱心であると思っています。このICT教育によって昔に比べると、他の学校の生徒とテレビ電話で交流や、切磋琢磨するような機会も先生方の努力で充実してきたと思います。ただ、物理的に人数が少ないと、子どもたちにとって臨場感みたいなものは補えないものがあります。実際にこの子どもたちの減っていくグラフを見たら、統合は仕方ないような気がします。その中で子どもたちが充実した生活を送れるようにするためにはどうしたらいいか、統合するまでの過渡期を考えたりしています。阿南市は、小規模校も10年くらい前とそんなに変わっていない気がしていて、頑張っている印象があります。そのあたりの情報もあればいいと思います。

(三浦教育長)

大きな再編計画を進めていて、これから統廃合が増えると思います。

(吉成委員)

逆に那賀町は先ほど龍田委員の話もあったように小学校は私が新任の頃に比べたらかなり減っています。それだけに阿南市の状況がどうなっていくのか気になります。

(事務局)

細かいところはあれですが、再編統合の計画は阿南市でも進められているため、小規模校も今までやってきたところが適正規模・適正配置の基準に則った形で集まっていく形になると聞いています。

(吉成委員)

しょうがないという時代の流れではあるが、過渡期だけでも子どもたちに充実した方策を考えていけたらいいなと思います。

(皆津委員長)

皆さんにご意見をいただきましたが、他に言い残したご意見などはございませんでしょうか。
無いようでしたら、事務局にお返しします。

(事務局)

次回の開催予定ということで、第3回につきましては1月に開催を予定しています。日程についてはまたご案内させていただきます。あと、ご意見をいただいた中でアンケートの結果や再編統合の関係の参考資料については、今回初めてご参加の方もいらっしゃるの合わせてお送りいたしますので、内容のご確認をお願いいたします。

もう一つだけ、丸本委員からお話がありました人口減少について、県も総合戦略を総合計画の上に位置付けて、人口を減らさないための施策をしているところで、海陽町についても同じように色々な取り組みをして、検証するというのを各課の施策で行っています。長尾委員からのお話のように、人口が減っていく部分のグラフが緩やかになっていくように取り組んでいきたいと思っておりますので、また色々ご意見いただければと思います。

それでは他にご意見がないということですので、以上を持ちまして本日の協議会を終了させていただきます。ありがとうございました。

閉会